

金貳百五十拾圓

法制局参事官 松本 忍治

金貳百圓

同 馬場 鎮一

同

同 杉村 真一郎

同

同 原 象一郎

右特別事務^殊勉勵^{ニ付}特^ニ頒^ル書^ヲ、並^ニ賞^ヲ與^ス相^成可^レ然

大正四年三月廿四日

内閣書記官

（印）

内閣總理大臣了

内閣書記官長

（印）

臺灣總督、指令按

臺灣總督府民政長官内田嘉吉外六十八名

賞與ノ件認可ス

元臺灣總督府民政長官大島久滿次外十九

名賞與ノ件認可ス

（印）

臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府

內閣總理大臣伯爵大隈重信殿

臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府



大正四年二月廿六日

臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府

臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府
臺灣總督府

中

大正四年一月六日

臺灣總督伯爵佐久間左馬太



內閣總理大臣伯爵大隈重信殿

別紙民政長官内田嘉吉外七十名本島林野調查關勤勞不貲付各頭書通賞與致度事業概要相添此段及稟申候也

1320

金九百圓 臺灣總督府民政長官 內田嘉吉

金七百圓 同 殖産局長 高田元治郎

金八百圓 同 技師 賀田直治

金五百圓 同 技師 山崎嘉夫

金二百圓 同 事務官 田阪千助

金百圓 元 臺灣總督府事務官 立川連

金二百圓 同 小林音八

金百五十圓 臺灣總督府事務官 本山文平

八 廿 三 六 七 三

金四百圓	臺灣總督府技師	野呂 寧
金百二十圓	同 技師	中村十一郎
金二百圓	同 技師	田中兵太郎
金二百圓	元臺灣總督秘書官	三村三平
金二百圓	臺灣總督府參事官	鈴木三郎
金二百圓	同 事務官	阿部 滂
金五十圓	同 事務官	菊池武芳
金二百圓	同 事務官	高山 仰
金五十圓	元臺灣總督府事務官	古木章光

七 一 九 三 三 一 十 八

高等林野調查委員會

金五百圓	委員 法院判官	石井常英
金二百圓	同 財務局長	中川友次郎
金五十圓	同 法院檢察官	手島英次郎
金百五十圓	同 法院判官	安井勝次
金二百圓	同 法院檢察官	高田富藏
金三百圓	同 法院判官	早川彌三郎
金百五十圓	同 審査部長 員神助 法院書記長	大内 信 伊藤正介

地方林野調查委員會

金三十円	委員嘉義廳技師	山本和吉
金百円	會長吉南施長	松木茂俊
金六十円	委員吉南施事務	川中子安次郎
金四十円		高島虎雄
金五十円		西岡健之
金五十円	左 技師	色部朱作
金三十円		島田宗一郎
金百円	元所長廳長	佐藤謙太郎
金六十円	委員阿波廳事務	林 禮藏
金五十円	左 警現	小山 謙
金百円	會長吉東施長	能勢靖一
金百円	左 元通港施長	飯田 章
金百円		澤井順平

五 四 四 四 一 五 三 四 三

金五十円	元吉山施長	井村大吉
金五十円	元桃園施長	西 美波
金五十円	元澎湖施長	横山虎次
金五十円	元元通港施長	中田直温
金五十円	元吉東施長	朝倉菊三郎

臺灣總督府

林野調查事業概要
林野調查事業ハ官有民有未定ノ山林原野其他
ノ土地ニ對シ業主權ノ申告ニ依リ詳密ナル調
査實測ヲ為シ土地臺帳及圖簿ヲ編成シテ以テ
林野地籍ヲ確定スルニ在リ則チ曩ニ本島ノ田
畑ヲ主トシテ施行シタル土地調査事業ト相待
テ最モ重要ナル事業トス本事業ハ明治四十三年
度ヨリ五年繼續トシ大正三年度ヲ以テ完成
スル豫定ニヨリ順次各廳ニ就キ調査及實測ヲ
遂行シ更ニ高等及地方林野調査委員會ノ査定
及裁決ニ依リ確定スルモニシテ之ニ依リ林
野ノ地籍ヲ定メ林政ヲ導キ併セテ財政ヲ裨補

スルハ勿論各種拓殖事業、勃興モ亦將ニ著々
健實ナル發達ヲ見ルアラントス實ニ本島林野
開發上一新紀元ヲ為スヘキ重要事業ト信ス今
試ニ其結果ヲ數示スレハ申告通數十六萬六千
余調査面積約百萬甲ノ多キニ達シ即チ曩ノ土
地調査ノ實測面積七十八萬甲ト併セ全島ニ所
屬不明ノ土地ナカラレハルヲ得タル次第ナリ
而レテ之ヲ實行スルニ方リ優ニ特別機關ヲ設
クヘキ事務ノ分量ヲ有シタルヲ以テ創業ノ始
メニ於テ臨時臺灣林野整理部ヲ特設スルノ官
制案ヲ提出セシモ之ヲ變更シテ該事業ニ從事
スル職員ヲ民政部ニ置キ殖産局ニ屬セシムル
コトトシ同局ニ林野調査課ヲ設置シ更ニ詰所

ヲ各地ニ設ケ局長以下課長主幹及各種ノ調査
員測量員圖簿編製員等各分掌ヲ定メ以テ豫定
ノ期間内ニ事業ヲ完成シタルモノナリ是レ偏
ニ従事員一同カ夙夜其職務ニ勵精シ上長ハ克
ク部下ヲ督勵シ部下職員モ亦克ク上長ノ命ヲ
奉シ一致協力シ事務ノ困難氣候地形ノ險惡ヲ
侵シテ山野ヲ跋涉シ萬難ヲ排シテ業務進行ニ
努力シタル結果ナリトス

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

内務大臣子爵大藏重信殿



大正四年二月廿八日

臺灣總督伯爵佐久間左馬太

一書

秘甲第一七〇二號

大正三年十二月十九日

臺灣總督伯爵佐久間左馬太



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

別記元當府民政長官大島久滿次外二十一名基
隆築港第一期第二期計畫工事及打狗築港
第一期計畫工事完成ニ關シ勤勞不貳ニ付各
頭書通賞與致度事業概要相添此段及票申

候也

追テ石賞與大正元年度基隆築港費
打狗築港費俸給殘額以內ニテ支辨_ノ筈_ニ
有之候

金千二百圓

元臺灣總督府民政長官

大島久滿次

金八百圓

臺灣總督府民政長官

内田嘉吉

金千圓同

技師

高橋辰次郎

金八百圓

元臺灣總督府土木部技師

長尾半平

金五百圓

元臨時臺灣總督府工部事務官

賀來佐賀太郎

金千圓

臨時臺灣總督府工部技師

山形要助

金四百圓

元臺灣總督府土木部事務官

今井周三郎

金五百圓

臨時臺灣總督府工部技師

筒井丑太郎

金三十五圓

元臨時臺灣工部事務官

佐々木忠藏

金三百圓 元臨時臺灣總督府工部技師 本田親幸

以上基隆打狗西築港ニ關スル勤勞者

金一圓 元臺灣總督府民政長官男爵後藤新平

金千圓 臨時臺灣總督府工部技師學博士川上浩二郎

金五百圓 同 工部技師 乾安五郎

金五百圓 同 松本虎太

金二百圓 元臺灣總督府土木部事務官 小池多朗

金二百五十圓 同 土木部技師 長尾正元

金二百五十圓 臨時臺灣總督府工部技師 十川嘉太郎

金百五十圓 同

堀見末子

以上基隆築港ニ關スル勤勞者

金百圓 臨時臺灣總督府工部技師 井上清

金二百八十圓 同 渡邊了武

金三十五圓 元臨時臺灣工部事務官 林禮藏

以上打狗築港ニ關スル勤勞者

築港事業概要

基隆築港工事ハ明治二十九年以來之カ準備
ニ著手シ三十二年度ヨリ三十五年度ニ至ル間
第一期工事ヲ為シ三十九年度ヨリ大正元年度
ニ至ル間ニ於テ第二期工事ヲ竣成シタリ
之カ第一期及第二期ノ工費總額金七百六
十六萬三千六百七十四圓余ヲ要シタリ

基隆港ハ本島ノ咽喉ニ位シ全島唯一ノ要港
ナリト雖北東信風ノ為殆ト半歳ハ波濤港
内ニ絶エス加之港内ニハ岩盤ヨリ成レル鰐公

鰐母二嶋嶼、蹲踞スル在リ且ツ港内水浅ク
其一半ハ干潮時ニ露出スル海埔ニシテ他ノ一半
ハ六尺乃至十二尺ノ水深ニ過キス僅ニ千噸内外ノ
船舶スラ其錨地ハ遠ク市街ヲ距ル一里半ノ沖
合ニアリタリ然ルニ第一二期築港工事ノ竣成ニ
伴ヒ今ヤ岸壁ニ六千噸級六隻外港繫船浮
標ニ二萬噸級二隻ヲ安全ニ繫留碇泊スルコトヲ
得陸上ニ岸壁全延長ニ沿テ上屋ヲ設ケ船車
連絡ノ便ヲ完全ニセリ

打狗築港第一期工事ハ明治四十一年度ヨリ著手シ

大正元年度ニ於テ竣成シタルモノナリ

本工事ハ當初六ヶ年繼續事業トシテ起工シタルモ
中途ニ於テ速成ノ必要ヲ感シ一年ヲ短縮シ五年
ト為セリ工費總額金四百六十四萬千八百七圓余ヲ
要シタリ

打狗灣ハ幅平均八百間長三里西北ヨリ東南
ニ亘ル湖状ノ入江ニシテ西南一帯ハ灣ニ沿テ幅約
百間ノ砂岬蜿蜒トシテ連リテ外洋ト隔絶ス
其西北端ハ丘陵兩岸ヨリ逼リテ小海峡ヲ為シ
僅ニ外洋ニ接ス之ヲ港口トス港内水極メ浅ク

其大部ハ千潮面以下二三尺ニ過キス唯港口附近、
水面約二萬坪ハ九尺以上ノ水深ヲ有シ僅ニ小蒸
汽船或克船等ヲ碇泊セシムルコトヲ得ルニ過キス
港口ハ幅約六十間水深十六尺乃至三十尺アレトモ
其中間ニ露出岩礁及暗礁アリ且ツ潮流甚々
急ニシテ時ニ或ハ一時間四哩ニ及フコトアルヲ以テ船
舶ノ出入ラシテ困難ナラシム港口ヲ距ル約二百間、
外洋中ニ陸岸ニ並行セル堤状ノ浅洲アリ其最
浅所ハ千潮面以下六尺ニシテ其深所ト雖尚ホ九
尺ニ過キス幅約八十間港口ノ前面ヨリ起リテ西北ニ

延ニ長約千五百間ニ達シ大船ノ港内ニ進航ス
ルヲ遮断ス然レトモ臺灣南部ノ港灣トシテ優
勝ノ地形ヲ占メ其ノ築港ハ南部開發上頗ル必要
ナルヲ以テ幾多ノ難問題ニ對スル調査ヲ経テ遂
ニ本築港ヲ實行シ今ヤ第一期工事ノ完成ニ
從ヒ四五千噸級ノ船舶ヲ港内ニ進航セシムルコトヲ
得ルノミテラス同時ニ八隻ニテ安全ニ岸壁ニ横繫
セシムルコトヲ得ルニ至レリ

右兩築港工事ハ叙上ノ如ク孰レモ至難ノ大事
業ニシテ就中基隆ニ在リハ軟弱ナル地質ニ對シ

岸壁、築造打狗ニ在リハ港口岩礁ノ取除キ
並ニ港外航路、浚渫等之ヲ設計上ノ苦心用
意ハ勿論其ノ作業ノ困難ナル實ニ名状スヘカラ
サルモアリ或ハ炎熱灼クカ如キ暑氣ニ堪ヘハ半
歳以上ニ亙ル降雨ニ浸潤シ且氣候風土ノ關係
上時疫ニ冒サル者最モ多ク殊ニ毎年數回暴風
雨ノ襲来ニ際シテハ危險ヲ冒シテ既成工事ノ
保護ニ全カラ致シ尚ホ工事ノ圓滿ヲ期スルカ
為緩急相應シ各種ノ調査ニ努メ材料勞力
ノ供給、如キ最モ迅速且經濟的ニ調達シ經

費仕拂其他諸般ノ整理ニ執掌シ内勤ト外
勤ト、別ナク能ク相應シ至誠以テ業務ニ
精勵シ豫定ノ計畫ヲシテ完成スルニ至ラシメ
タリ

寫

大正四年三月十日

臺灣總督府財務局長中川友次郎

內務大臣祕書官殿

目下叙勲及賞典之關、稟申中、
係、築港並林野整理事業、外
残、通、各、法、系、不、也

基隆築港工事

基隆港ハ本島地方ノ咽喉ニシテ本洲ト最近航程ヲ有シ又
全島中唯一ノ良港タリ得ヘキ地形ヲ有スト雖然ント半歲
ノ間ハ北東信風ノ為ニ波浪絶ヘス又港内中間區ニ存在
スル暗礁又ハ淺洲ノ為ニ安全ナル碇泊地タルヲ得ス僅カニ
千噸内外ノ船舶スラ市街ヲ距ル遠ク一哩餘ノ沖合ニ
アリ又北方ニ港口ヲ有スル結果一朝北風ノ荒ルハアラハ
忽チ怒濤澎湃トシテ港外ト何華擇フ所ナリ現ニ三丁
年以後四箇年同ニ於テ濤船五隻西洋形帆船一隻
私克船十九隻澳船五十四隻ノ難破アリシカ如キ本港
過去ノ危險ヲ推想スルヲ得ヘシ然レトモ本島内外ノ運
輸交通上頗ル杞憂ノ地位ニ在ルヲ以テ之レカ修築ノ必
要ニ領臺當時早ク当局ノ議ニ上リ臨時軍事費ヨリ

基隆築港調査費支出、認可ヲ得文武官僚中ヨリ委
員ヲ任命シ二十九年以後之レカ調査著手シ三十二年
十月ニ至リ防波堤ノ築造港内浚渫ノ設計ヲ圖リ之
レカ豫算老十第月ノ時、議會ニ要求シタルニ財政上
其成立ヲ見ルニ至ラス僅カニ港内一部ヲ浚渫シ築地
周圍ノ石垣及船舶所ヲ完敗スル目的ニ對シ三十二年
度ヨリ三十五年度ニ互ニ繼續事業トシテ二百第月
ノ豫算ヲ得工事ニ著手シタルヲ端緒トス之レヲ第一
期事業トス而レテ事業完敗ノ結果三千噸内外ノ
船舶ヲ港奥一哩半ニ導キ安全ナル泊地ヲ與ヘ且浚渫
ニヨリ有效水面積ヲ増大シ其土砂ヲ投棄シ以テ沿岸
ニ埋築地約二百一十坪ヲ造リ鉄脚仮棧橋ヲ建設シ
テ三千噸内外ノ船舶ヲ同時ニ二艘破泊シ得ンニ至ル等

基隆港ハ實ニ曩日ノ面目ヲ一新シタルニナリト雖之
レニ工事ヲ施スニアラスハ港灣トシテ一價値ヲ得ムルニ
足ラス是則ち三十五年度ノ議會ニ第一期事業豫
算ヲ提出シタルニ財政ノ關係上遽ニ之レヲ容レラス
其後ノ議會、於テ否決又ハ議會ノ解散等ニ遭遇
シ三十四年內第一期事業豫算ノ運命ヲ決スルニ至ラス僅カニ
三十六年度ニ三十三萬三千七百二十五圓三十七年度ニ三十九
萬八千三百九十八圓三十八年度ニ三十三萬三千二百四十
圓ノ維持費ヲ得既敗部即チ浚渫區域及船舶
樁杙器具ノ保全ニ努メ越ヘテ三十九年第一十三議會
ニ於テ始メテ第一期事業豫算六百三十萬圓ノ大
出ヲ可決セシ三十九年度以降四十一年度ニ至ルニ七
年繼續事業トシテ經營セシニ爾來豫定ノ如ク進工セリ

其年度剩額大に如し
 明治三十九年度工費 五〇、〇〇〇
 〇 四十年工費 七、七五〇
 〇 四十一年工費 一四、七四〇
 〇 四十二年工費 一、一五〇
 〇 四十三年工費 九、四八〇
 〇 四十四年度工費 八、八二〇
 〇 四十五年工費 五、六七〇
 今や第一期第二期築港は作らば千噸型船舶修造に
 し岸壁横に出入船舶碇泊に於ける危険と荷
 役とに於ける損果を除去し得んに至り茲に基隆港一
 面目に全ク一変して其運輸交通に快く利益に
 實に大なりトス

右第二期工事の大成元年度より完成したるに付
 此際相当の行賞をトス
 右行賞費の大成元年度に於ける俸給剩餘五萬二百十
 七圓の半に於ける充當を以て（但し右元年度剩餘
 金の毎次繰越来り現に三年度に豫算トナリ居り）

臺灣總督府

打狗築港工事

臺灣南部ニ良港ヲ有スルノ必要ハ本島(南)最ニ
緊要ノ事ニ屬シ其之レヲ實行スルニハ打狗港ニ修
築ヲ加フルヲ最ニ得策トス

打狗港ハ四面陸地ニ包圍セラル湖狀ノ入江ニシテ港内
極テ廣闊ニ港灣トシテ真ニ優勝ノ地形ヲ有ト最モ
港ノ幅員僅カニ五十間餘リニシテ然カモ独立ノ岸
礁外ニ在リ且港外ニ海岸線ニ沿ヒテ千五百万間ニ亘ル堤
狀河一極ニテ水陸連絡ノ人工的設備固ヨリ
之ヲ欲ス

以上狀況ナルヲ以テ當時ニ於ケル臺灣南部産業ノ
發展ニ鑑ミ水深ヲ二十四尺トシ二三噸外ノ船舶
十隻ヲ岸壁ニ因テ隻ヲ浮橋ニ依テ計十五隻ヲ同

時港内、^容入し岩壁（六万四千円）＝^記記し、上家及氣
 庫、設け、以て水陸連絡、便に圖ん、目的、之、總工費、四
 万七千三百四十円、得、四十一年度、より、六十年、繼續事業
 ト、之、工、事、之、着、中、之、ト、之、即ち、第一期、事業、ト、ス
 其後、一年、より、之、輸、入、貨、物、の、急、遽、一、増、加、ヲ、計、ス
 其、速、度、ヲ、保、エ、コ、ト、爲、ス、之、商、一、年、ヲ、短、縮、ス、ル、已、ム
 ヲ、得、サ、ル、ニ、至、リ、又、兩、東、豫、期、一、工、程、一、進、行、ヲ、遂
 ケ、得、ス、其、工、ヲ、了、ヘ、ス、
 今、之、し、カ、工、費、年、度、割、額、ヲ、示、セ、イ、タ、ノ、如、シ
 昭和四十一年度工費 七〇〇、〇〇〇
 昭和四十二年度工費 八〇〇、〇〇〇
 昭和四十三年度工費 一、四〇〇、〇〇〇
 昭和四十四年度工費 一、〇〇〇、〇〇〇

昭和四十五年度工費 七二〇、〇〇〇
 以上、如ク、新、港、第一、期、計、画、一、年、間、事、業、繰、上、ケ
 一、決、行、ヲ、見、ん、ニ、至、リ、之、施、工、年、度、一、短、縮、ニ、依、リ、省、金、
 生、ス、（中、豫、算、一、膨、脹、の、財、政、一、都、合、に、到、底、之、し、テ、計、
 サ、ル、ニ、ハ、一、年、申、り、当、初、四、十、五、萬、三、千、五、百、圓、一、吞、吐、數、ヲ、
 三、十、五、萬、圓、ニ、岸、壁、六、万、四、千、圓、ヲ、四、万、七、千、圓、ニ、（輕、便、面、積、
 十、倍、以、上、七、倍）縮、小、シ、テ、浚、渫、工、事、ヲ、連、成、セ、サ、ル、ヘ、カ、
 サ、ル、ニ、已、リ、テ、得、サ、ル、ニ、至、リ、シ、然、レ、ニ、既、ち、四、十、三、年、ヲ、於、テ、
 并、狗、停、車、場、於、テ、ハ、貨、物、取、扱、數、一、三、十、萬、三、千、余、
 噸（四、六、五、三、一、六、六、七、四）ニ、及、ビ、計、画、書、計、即、ち、四、十、年、
 ニ、於、テ、ハ、十、五、萬、一、千、余、噸（一、一、六、八、〇、四、三、六、四）ニ、對、シ、実、
 二、四、倍、一、割、増、シ、テ、其、貨、物、の、出、入、上、本、工、事、一、甚、隆、
 ニ、榮、ハ、リ、利、益、甚、大、ナ、リ

而して左第一期ノ工事ハ大正三年及び以テ完成シタ
ルニ付キ、基隆築港ト因シテ相当行費セトス
右行費ハ大正三年及び以テ左ノ俸給剩餘三万
円ノ内ヨリ以テ之シテ充出スルモノナリ
余金ハ毎次繰越キ、現々三年及び豫算トナリ存ス

林野調査事業

台湾ニ於ケル山林原野ハ古来豊テ丈量セラレタルコト
ナク、居民有、性質不明ニシテ而カモ全島ニ亘リ廣
大ナ地域ト推推ナニ地形トナリ極メテ錯雜紛糾シ
テリタルヲ以テ曩キハ臨時臺灣土地調査事業ニ在リ
テモ調査ノ範圍ハ田、畑、建物敷地、養魚池等ノ地
ニ限ラレ山林原林ハ殆ント全ク之ヲ調査セサルコトナレリ
是ノ爲メ累年並々土地ニ関スル紛議絶ヘス實ニ地籍
林政、並ニ拓殖ノ方針ヲ振作スルニ大ニ障害トナレリ
此外幾多ノ田、畑、建物敷地、養魚池、如キ全島各
地特ニ溪辺、海辺若シハ山岡ニ未調査ノ俵散布ナ
在スルコトアリ加フニ東部海岸ニ面スル台東、花蓮港
並ニ千有餘ノ有人島ニ亘ル海中ニ散布スル澎湖島ノ

三廳下、全地土地調査ヲ施行セラルトアラス林政並拓殖ノ發展上ニシテ現状ニ於テハカササハニ至リ茲ニ臨時林野調査事業ヲ施行スルノ必要ヲ認メ林野整理費豫算ノ概算ヲ定メ之ニ關ス特別法ニ付臨時職員トシテ明治四十三年度ヨリ着牛シ逐次全島各廳ニ亘リテ調査ヲ施行シ大正三年度マテ五ヶ年ヲ費シテ推測申告通數十方方々餘通ニシテ夫々調査費割ヲ加ヘ其ノ面積九十七方々餘甲(即チ約百萬甲)ニ達シ更ニ地方林野調査委員令ノ査定若クハ高等林野調査委員令ノ裁決ヲ依テ官民有ノ權利ヲ確定スルニ至リタルニ至リテ林政、拓殖並財政上共ニ良好ナル成果ヲ遂クルニ至リタリ

本事業ノ豫算總額、五十八万余円ニシテ其ノ年度別

左ノ如シ

四十三年度	三〇、〇〇〇円
四十四年度	一四六、五八二
大正元年度	一六〇、五一二
二年度	一六三、五五〇
三年度	八二、〇三四
計	五八七、七七八

尚ホ各廳施行ノ順序左ノ如シ

台東	四十三年度
花蓮港	四十三年度
嘉義	四十三年度
南投	四十四年度
台中	四十四年度

新 竹 大正元年度
 阿 南
 桃 園
 澎湖
 宜 蘭
 台 地
 全三年度
 全二年度
 今田、林野調査、土地調査完了後、今年、後、年々、著
 牛、シタル、テ、其、同許可地、新規、開墾、地、又、
 異、動、地、の、如、キ、複、雑、な、変、化、子、の、開、墾、を、止、し、而、力、を、
 既、登、録、の、地、図、に、連、絡、シ、テ、實、測、の、信、果、ヲ、抑、の、接、続、
 ス、ル、事、ニ、シ、テ、且、ツ、九、十、七、万、余、甲、の、大、地、積、に、對、ス、ル、
 ナ、ル、テ、次、テ、技、術、上、の、困、難、を、亦、以、テ、土、地、調、査、事、業、に、

讓、る、特、々、人、民、土、地、欲、の、高、騰、ト、モ、中、々、敷、の、増、加、
 ヤ、リ、ト、亦、著、し、の、既、施、行、の、信、果、ハ、ツ、キ、テ、見、ル、に、毎、年、
 十、万、方、々、余、通、ノ、多、敷、一、上、リ、以、上、に、對、シ、毎、年、地、一、々、
 調、査、ヲ、要、ス、ル、事、ナ、ラ、ズ、今、田、の、調、査、区、域、の、地、勢、險、要、
 シ、テ、隘、路、固、難、ナ、ル、山、林、地、方、其、の、大、部、分、ラ、ハ、此、ノ、外、
 有、ラ、ズ、ニ、未、登、録、地、目、に、關、シ、調、査、ヲ、遂、行、ス、ル、事、ニ、シ、テ、
 其、の、困、難、多、大、ナ、ル、ヲ、ア、リ、タ、リ、
 以、下、毎、年、施、行、の、信、績、ヲ、示、セ、タ、ノ、如、シ、

申告通数 一、五、五、二、二、七、通
 調査甲数 九、七、八、五、八、甲（三、八、一、一、三、四、等）
 内 官有 九、三、三、四、五、七、甲
 民有 五、五、一、九、一、甲
 地目別面積

田 九、四、六甲
 建 二、二、七四甲
 原 一、一、九、四、三、四甲
 其他 三、二、四、七甲
 計 九、七、八、六、五、八甲

烟 三、九、八、八、七甲
 林 七、九、八、八、七甲
 草 六、九、一、四甲

叙上ノ如ク土地ノ官民有未査定ナルハ地籍、林政
 並拓殖上ノ大障礙ナリシテ本調査ニ依リ之ヲ決
 定スルニ至リシヲ其ノ效果ノ多大ナルコト言フ俟タズ
 尤ニコレヲ西ノ説スレシ

(一) 地籍ノ確定

土地調査ニ次キ未査定土地ノ全部即チ本島ノ土地
 全部ニ對シ官民有ノ区分ヲ決定シ土地台帳、地圖
 並官林台帳、官林圖等ヲ編成シ以テ地籍
 處方ニ管理、基本ニ供スルコト

(二) 林政ノ拓殖ノ基礎

官民有ノ区分ハ林野ノ處方、及施業ノ基礎
 トナリ林政ヲ確立スルニコトヲ得即チ林野調査ノ
 結果ニ依リ更ニ官有林野ノ整理ノ必要不
 要有無、又方ヲ定テ逐次ニ之ヲ拂下處方シ
 以テ官民有ノ分配ヲ適當ナラシメ林野ノ保護
 繁殖、造林、園藝、牧畜等拓殖施民、實蹟
 ヲ著クシ以テ改良ス

(三) 財政ニ對スル効果

林野調査ノ結果ニ基キ年々收シ得ヘキ租税及
 下貸下等ニテ更ニ之ヲ相當牛價ヲ執ラシ收メ
 ン得ル際定有ル

租税並貸下料金年額 一七二、五五七円

拂下収入

二、三、五、二、〇、九、九、一、九

(折下完了後、但復年額一〇、〇、二、一、一、九)

④ 治水、破防其、他国土保衛上、効果

従来、如、中、林、野、の、状態、を、ア、リ、テ、年々、林、野、の、

荒、廢、地、盤、の、流、失、を、止、る、に、コ、ト、劇、甚、ナ、リ、シ、カ、本

調、査、に、依、り、恢、復、策、の、基、本、ヲ、得、タ、リ

以、上、ヲ、要、ス、ル、に、臨、時、出、渡、林、野、調、査、事、業、の、効果、

偉、大、ニ、シ、テ、本、島、の、地、籍、林、政、並、振、興、ヲ、振、興、シ、保、セ、ラ

財、政、上、の、利、源、ヲ、涵、養、ス、ル、ヲ、得、タ、リ、調、査、員、の、精、勵

力、行、シ、タ、リ、情、果、シ、テ、其、の、功、績、顕、著、ナ、リ、以、テ、此、の

際、相、當、行、賞、セ、シ、ト、ス、方、行、賞、費、ハ、本、年、度、林

野、整、理、費、の、餘、剰、金、の、内、ヲ、以、テ、之、シ、テ、充、當、ス、ル

ヲ、ナ、リ

年俸額	分金	姓 名
五〇〇〇	四ヶ月分金	内田嘉光
三七〇〇	四ヶ月分金	高田元治郎
二五〇〇	六ヶ月分金	賀田直治
一五〇〇	八ヶ月分金	山崎嘉夫
一七〇〇	一ヶ月分金	田阪千助
二五〇〇	一ヶ月分金満	立川連
一七〇〇	一ヶ月分金	小林音八
一二〇〇	一ヶ月分金	本山文平
二七〇〇	一ヶ月分金	野呂寧
一二〇〇	一ヶ月分金	中村十一郎
一〇〇〇	二ヶ月分金	田中兵吾
三〇〇〇	一ヶ月分金満	三村云五

二五〇〇	一ヶ月分未済	鈴木三郎
二五〇〇	一ヶ月分未済	河部 浩
一一〇〇	一ヶ月分未済	菊池 武芳
三〇〇〇	一ヶ月分未済	高山 仰
一五〇〇	一ヶ月分未済	吉木 章光
四二〇〇	一ヶ月分未済	石井 常英
三七〇〇	一ヶ月分未済	中川 友次郎
三七〇〇	一ヶ月分未済	平島 兵次郎
三二〇〇	一ヶ月分未済	安井 勝次
三〇〇〇	一ヶ月分未済	高田 富蔵
二七〇〇	一ヶ月分未済	早川 彌三郎
二五〇〇	一ヶ月分未済	大内 俊
一〇〇〇	一ヶ月分未済	伊藤 正介

二七〇〇	一ヶ月分未済	加福 豊次
一七〇〇	一ヶ月分未済	市来 半次郎
一一〇〇	一ヶ月分未済	河村 徹
一二〇〇	一ヶ月分未済	野口 有国
一二〇〇	一ヶ月分未済	小川 要七
三〇〇〇	一ヶ月分未済	小根 吉久
一一〇〇	一ヶ月分未済	金子 恵教
二二〇〇	一ヶ月分未済	武藤 針五郎
一一〇〇	一ヶ月分未済	山内 小藤二
三五〇〇	一ヶ月分未済	家永 泰吉郎
二〇〇〇	一ヶ月分未済	稻股 勲治
一七〇〇	一ヶ月分未済	南 政光
一二〇〇	一ヶ月分未済	今田 昭祐

三〇〇〇	一ヶ月分未済	枝	徳二
一七〇〇	一ヶ月分未済	依来忠	蔵
一五〇〇	一ヶ月分未済	山田春	蔵
一五〇〇	一ヶ月分未済	後藤政次郎	
二〇〇〇	一ヶ月分未済	久保隆三	
一七〇〇	一ヶ月分未済	長尾鑑之助	
一五〇〇	一ヶ月分未済	石松	亨
三〇〇〇	一ヶ月分未済	津田毅一	
一五〇〇	一ヶ月分未済	瀬尾長国	
一七〇〇	一ヶ月分未済	中田直久	
一二〇〇	一ヶ月分未済	宇都宮規矩夫	
一五〇〇	一ヶ月分未済	網野一	秀

一一〇〇	一ヶ月分未済	山本和瓦	
三〇〇〇	一ヶ月分未済	杉本茂俊	
一七〇〇	一ヶ月分未済	川中子安治郎	
一二〇〇	一ヶ月分未済	高島虎雄	
一五〇〇	一ヶ月分未済	西岡健之	
一五〇〇	一ヶ月分未済	色部未作	
一七〇〇	一ヶ月分未済	島田宗一郎	
三〇〇〇	一ヶ月分未済	佐藤謙吉	中
一七〇〇	一ヶ月分未済	林 祺	蔵
一二〇〇	一ヶ月分未済	小山	謙
二二〇〇	一ヶ月分未済	依来忠	蔵
二二〇〇	一ヶ月分未済	銀田	亨
二〇〇〇	一ヶ月分未済	酒井順平	

四

五

二〇〇〇	十一ヶ月分金	乾安五郎
二〇〇〇	十一ヶ月分金	松本虎右
一一〇〇	九ヶ月分金	小池孝介
一五〇〇	四ヶ月分	長尾正元
三〇〇〇	二ヶ月分	十川嘉平
二五〇〇	二ヶ月分金	堀見末子
一二〇〇	一ヶ月分金	井上清
一〇〇〇	七ヶ月分金	淡邊三武
一七〇〇	一ヶ月分金	林禮蔵

電報譯

築港

勸港六年以上一季以上二季二年以上
 三季一年以上四季トシ月俸一俵二付一ヶ月一季ハ
 九月二季ハ七季三季ハ六季四季ハ五季ハ四季ハ三季ハ
 不但工事完成前退官者ハ半額民政長官
 二名ハ長部長ヲ兼スルハ勸港月俸二其ノ
 二名ハ増加シ一季ノ金額ヲ二ノ半出シ者ホ
 勸港ノ程度ハ依リ増減ス

林野調査

判任以下ハ季俸ヲ五季トシ月俸一俵二付一ヶ月

(持) 御意 (多) 海防事務 臣等 謹言 以 爲 勸 懲 之 資
百 (一) 海防事務 臣等 謹言 以 爲 勸 懲 之 資
百 (一) 海防事務 臣等 謹言 以 爲 勸 懲 之 資
百 (一) 海防事務 臣等 謹言 以 爲 勸 懲 之 資

内務省 明治三十四年三月二十七日

内 二五八

三

金百五十拾圓 内務大臣秘書官 坂田幹太
金百五十拾圓 内務書記官 後藤文夫
金八十拾圓 内務書記官 潮惠之輔
金八十拾圓 内務書記官 河原田稼吉
右ハ本年衆議院議員臨時総選挙
事務ニ就キ日夜勵精勤勞不貳ニ付
特ニ頭書ノ通俸給豫算内ニ於テ賞
與被度及稟議候也

大正四年三月二十七日

内務省

三十三